

■（155）教壇から子供らに語りながら、二つの震災被災地を思う

顔を洗って洗面所のレバーを引き上げて水道を止める度に、阪神大震災を思い起こしていた。最近の水道はレバーを押し下げて止めるタイプがほとんど。その境は19年前の阪神大震災だと思い込んでいたからだ。記事データベースを引くと、真実は少し違った。

朝日新聞の兵庫県向け地方版で3年前に特集していた。上げ下げ変更の最大の理由は「欧米の流れ」だった。国内で普及していた下げ止め式からの変更は、震災前から検討されていた。震災で倒れた物でレバーが押し下げられて水道が出っぱなしになったとの報告も変更を後押しする一因にはなったらしい。その後、正式に上げ止め型が廃止されたのは震災から5年過ぎた2000年3月だった。欧米の流れに従ったとはいえ、「阪神」が建物の耐震強化を大きく進めたことは間違いない。東日本大震災で被災地・盛岡に赴任した際も、地元不動産会社によるお勧め物件は「阪神大震災後に建ったマンションで安心」だった。

震災と報道を題材に久しぶりに小学校の「教壇」に立った。自作スライドで5年生に話をし、自らも両被災地への思いを新たにした。東日本大震災からまもなく3年となる。(山)